

## 双体道祖神について

民間信仰で、もともと庶民の間に親しまれていたのは道祖神信仰である。この道祖神のうち、双体道祖神と呼ばれるものが、酒々井町に9体まつられている。根古屋、尾上、新堀、中川、上郷、柏木2、下岩橋2である。

双体道祖神は長野、山梨、静岡、神奈川、群馬の5県に限定されているといわれるほど県内では珍しい存在であり、その信仰系体に興味がある。双体道祖神は写真で見るように男女のカップル像であるが、この素朴な石像に秘められている心はなんだろうか、男像の右手が女像の肩にかけられ、その手を女像の右手が握っている。双方の左手は1本の杖を仲よく握っている。江戸時代の造像としては大胆なポーズである。双体道祖神は縁結び、夫婦和合、子宝授けの神さまとして、本来の道祖神信仰が変形した性神的要素を多分に含んで信仰されてきたようである。



### 1 新堀の双体道祖神

像高 47cm

年号 不詳

←

酒々井町字広町と巖島山の境の形成踏切脇にはほかの石佛塔に混ざり、木の祠（ほこら）の中にまつられている。

### 2 根古屋の双体道祖神

像高 38cm

年号 不詳

→

本佐倉字向根古屋の山裾に西面し他の石佛群と共にまつられている。

像形は風蝕されてやや崩れをみせている。





### 3 下岩橋の双体道祖神

像高 43cm

年号 不詳

← 下岩橋字田中の三叉路杉木立の中に庚申塔と隣りあってまつられている。男像の首がセメントにて補修されているが全体像は整っている。

### 4 柏木の双体道祖神

右 享和二年(1802)

像高 60cm

左 昭和八年(1933)

像高 56cm

→ 柏木字宮下、七社神社入口にあり、二像とも年号が明記されている。右男像の首が補修されている。



### 5 中川の双体道祖神

像高 20cm

年号 不詳

← 中川字廣町、水神社の境内にあり、像高が極めて小さいのが特色である。



## 6 上郷の双体道祖神

像高 40cm

年号 不詳



上岩橋字中山、菊賀神社の石段下脇にひっそりまつられている。この像も風蝕されている。

## 7 尾上の双体道祖神



宝暦五年（1755）

像高 40cm



尾上字西谷津にあり、住吉神社石段の真向かいで、門倉家の氏神としてまつられている。

普通道祖神は村中が信仰対象であるがこの道祖神は氏神となっているのは珍しいことである。

背面 宝暦五亥三月吉日